

平成22年 新年の挨拶

～住んでみたい、住み続けたい
まちづくりをめざして～



舞鶴市長
齋藤 彰

新年あけましておめでとうございます。

平成22年の新しい門出を市民の皆様とともに迎えることができましたことを、心から嬉しく存じます。

昨年は、極めて残念なことに本市職員が収賄容疑で逮捕・起訴されるという事件が発生しました。改めて深くお詫びを申し上げますとともに、公務員倫理のさらなる徹底と再発の防止を図り、市民の皆様への信頼回復に向け、全力を傾注してまいりたいと存じます。

さて、昨年も世界的に経済の不安定な状態が続き、不況・雇用対策が急務となった年でありましたが、本市におきましても、緊急雇用創出事業の実施など市民生活の安定に向けて積極的な取り組みを行ってきたところであります。

そういう中であって、本市のまちづくりが着実に進んだ年でもありました。JR東舞鶴駅周辺の土地区画整理事業や国道175号の新大川橋整備など、長い歳月を要した大事業が完了したほか、舞鶴国際ふ頭の整備も進捗し、今春には供用開始される運びとなりました。まさに京都舞鶴港の新時代の幕開けであり、日本海側のハブ港的な役割を担っていくことが期待されているところであります。また、ふ頭用地には、今まさに求められている環境型企業の誘致が決まり、港の活用に向けて大きな展望が見出されたところであります。

さらに、平工業団地には、農工一体となった新たな産業を拓く企業の立地も決定し、地域経済をより力強くしていただけるものと喜んでいただいております。

一方で、本市の最重要課題であります地域医療につきましても、将来にわたって持続可能な医療体制の構築をめざし、公的3病院の再編に向けて取り組んでまいったところであります。

これは、全国的にも例をみない設置母体の異なる病院の再編ということもあり、困難な課題ではありますが、引き続き各設置母体との調整・協議や財源の確保などを着実に進め、気概をもってやりぬく決意でありますので、市民の皆様への引き続きのご理解、

ご協力をお願い申し上げます。

また、大変感慨深いこともありました。

私は、昨年、白糸中学校の生徒さんと一緒に、52年前に彼らの大先輩が母校に対する思いや後輩に夢を託して植林した学校林の伐り出し作業を行いました。これは、校舎の全面改築にあたって、その一部に学校林の木材を使用することになったものですが、「木」に託された思いが次の世代に確実に受け継がれ、そのことが将来にわたって母校への愛着へ、ひいてはふるさとに対する愛着へとつながるものであると確信しております。

今、少子・高齢化が進む中で、本市においては、新たなまちづくりの指針となる次期総合計画の策定に向けた議論を市民の皆様とともに進めています。目指すところは、「ふるさとに誇りのもてるまちづくり」、「住んでみたい・住み続けたいまちづくり」ですが、その根底に流れる思いは、白糸中学校での取り組みのような“ふるさと愛着のリレー”を世代間で途切れることなくつないでいきたいということです。

本年は、私自身、平成19年2月に皆様から舞鶴市長としてのご負託を受けて以来4年目の年にあたります。私は、その仕上げをすべく、市民の皆様が真に必要なものは何か、市民の皆様への幸福につながるものは何かという原点に立ち返って、市が果たすべき役割を見極め、まちづくりを推し進めていきたいと考えております。

地方自治のあり方が改めて問われている今日、私たちのまち舞鶴が、かけがえのないふるさととして市民の皆様へ愛着を持ち続けていただけるよう、英知を結集し、果敢に市政に取り組む決意でありますので、どうか一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆様にとりまして、本年も良き1年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。